

令和3年度 えりも高校 第2回授業評価アンケート結果分析

アンケート実施期間：12月6日～12月16日

質問項目（各教科・科目共通）

先生に関する項目	①	授業の目標がわかりやすい。
	②	板書やプリント・PCの文字、先生の説明・指示や声量・話す速度などがわかりやすく、整理されている。
	③	授業の内容や難易度は自分に合っている。
	④	ペアワークやグループワークなど対話的活動により、自分で考えたり発表したりできるような授業である。
	⑤	どのように評価されるか説明している。
	⑥	内容や疑問点について振り返る時間があり、伝えやすい。
生徒自身に関する項目	⑦	話を聞く姿勢を取るなど、ふさわしい態度で学習している。
	⑧	授業に積極的・主体的に参加している。
	⑨	分かりやすく発表したりまとめたりすることができている。
	⑩	この授業を通して、その科目に関する考え方が深まった。
	⑪	この授業を通して、知識や技能の向上を実感している。

○生徒の評価

4～1の段階で評価する。

4	そう思う。
3	どちらかというと思う。
2	どちらかというと思わない。
1	そう思わない。

○評価の段階

生徒の評価の平均を以下の評価とする。

3.45以上	A評価
2.90以上	B評価
2.35以上	C評価
2.35未満	D評価

教科（国語科）

①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動）

目標・評価基準を、単元や授業の始まりに明確に伝える。

ペア・グループ活動のなどの対話的活動がある授業という評価は高いが、一方で、わかりやすく発表したりまとめたりすることができているという評価が、2、3学年で改善傾向も、1学年において低い値となっている。科目に関する関心・知識や技能の向上に関する項目も他と比較すると低い。→活動するだけになっていないか、今一度、活動の意義・必要性を考える必要がある。

②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動）

該当なし。

③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動

1学年において個人でプレゼンの実施。発表などの機会を設け、技能の向上の実感を図りたい。低学力生徒の支援が難しい。個別最適な学びを提供するため、様々なアプローチをしていきたい。例) 1学年において、学年合同実施により、学び合える環境の整備。

教科（地歴公民科）**①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動）**

生徒が教科書から調べたり、事象について考えたりする活動の設定を心掛けた。その設定は生徒に対して伝わっている部分が増えたと考えられる。知識のみの注入ではない授業を心掛けたい。

2年生については前期と比べて全体的に評価が上昇した。ただ、「どのように評価されるか評価している」という点は各回の課題に対する答案に対する解説を言っているものと考えられ、今後も継続すべき内容と考えている。

②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動）

各学年、授業の難易度について、低く表れている様子である。生徒に「何が身についたのか」を実感させるまとめや振り返りを各単元で1回以上行いたい。難易度が高いと感じる生徒は増えていくと感じる。わかりやすく発表する、まとめる部分で各学年の自己評価がBになっている。機会を何度も設定して、できる実感を与えたい。

2年生については「授業に積極的・主体的に参加している」の評価がわずかに低減した。もっと主体的に参加できる授業につくりかえていきたい。

3年生について、「分かりやすく発表したりまとめたりすることができている」の項目が他の項目に比べて著しく低い。全体的にかなり伸びてきていると感じるが、自己評価を上げられるよう、適切な評価を伝えていきたい。

③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動

基礎基本の徹底を図り、生徒が「できる」といった実感を与えたい。

教科（数学科）**①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動）**

1年生は後期に入り、難易度が上がったことも影響してか前期ほどは理解度、満足度ともに下がったが、高めの評価をいただけたと思う。3年生は選択授業であり、内容が自分に合うものも多いため、学習意欲につながっている部分があると思われる。

2年生基礎クラスにおいては、個に応じた対応やメンバーを固定して実施したことの効果が少しあった。1年生については次年度どうするか検討しなければならない。

②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動）

「まとめ・発表」や「教科への興味・関心」についての生徒評価は高くない。生徒の理解度に応じた問題精選や数学的話題の提供、個に応じた対応など、研鑽を重ねていかねばならない。なかなか難しいところではあるが、発表する機会を増やしていきたい。

③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動

評価が高いのは良いことだが、真剣に考えずに評価している生徒もいると思われる。目的を明確にして生徒に回答させる意味を伝えていきたい。

1、2年生の習熟度展開について生徒の実態に応じた方法を検討していく。

教科（理科）**①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動）**

2、3学年は全般的に評価が高く、モチベーションもあると思われる。今後も引き続き生徒のやる気を引き出す授業を心掛けたい。

②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動）

1年生で④グループワークやペアワークなど対話的活動に評価Bが付いた。今後は実験やグループ活動を中心とした学習を増やしていきたい。

③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動

教科（保健体育科）
①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動）
<p>1年生</p> <ul style="list-style-type: none"> 概ね点数が高い。特に、ペアワークやグループワークなども可能な範囲で今後も継続していきたい。 <p>2年生</p> <ul style="list-style-type: none"> 概ね点数が高い。①、②、⑤については、教員側が意識的に取り組んでいる成果であるため、継続していきたい。目標については、段階的なものを視覚的に示していけると良い。 <p>3年生</p> <ul style="list-style-type: none"> 概ね点数が高い。2学年と同様。
②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動）
<p>1年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑨の発表項目が他に比べ低い。まだまだこれから慣れていく段階なので後期にはこの数値が上昇するように意識的に発表活動を盛り込んでいく。 <p>2年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑨の発表項目が他に比べ低い。まだ周りにわかりやすく伝えるための方法等を掴めていないので、まずは生徒自身がしっかりと理解できるような指導方法を工夫していきたい。 <p>3年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑨の発表項目が他に比べ低い。3年生になってから自分たちで活動を計画しながら進めていく学習活動が増えたことにより、取り組みが甘いと十分な達成感が得られにくくなっていることが要因に挙げられる。また、③の授業の難易度については、運動ができる生徒とそうでない生徒が極端な学年であったため、低く出ていると考えられる。
③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動

教科（英語科）
①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動）
<p>全学年、前期よりも評価が上がり、A評価が増加した。どの学年も、「英語を話せるようになりたい」「英語を使えるようになりたい」という願望があるため、生徒の意欲が高まっているように感じる。それらに応えられるよう、教員としても創意工夫をし、ALTと協力しながら、英語に関する関心意欲を高め、運用能力を伸ばす授業を展開している結果であると感じている。今後も、ペアやグループワークを通して、互いに学び合う姿勢を養い、生徒と教員、互いに授業で英語を使う頻度を増やして、生徒の英語の能力を向上させていきたい。</p>
②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動）
<p>どの学年も「わかりやすく発表したりまとめたりすることができている」という項目が他の項目より低いので、相手にわかりやすい英語で伝える活動やプレゼンテーション活動を行っていく。さらに、生徒の興味関心や知識技能を高めることができるように、授業を改善していく。</p>
③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動
<p>新年度の学習指導要領改訂に向け、「指導と評価の一体化」を意識した授業改善を行い、生徒の意欲向上に努めていく。また、授業内容を工夫し、基礎学力の定着から表現活動の充実を行うことで、より英語運用能力を高められるよう、授業を行っていく。</p>

教科（家庭科）
①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動）
3学年の選択科目では外部講師を招き、地域と連携した授業の実施や、体験的な学習や各種実習も多く生徒の満足度が高いと分析する。次年度以降も協力を仰ぎ、地域に根差した学習を続けていきたい。また、3学年を通じて学習に意欲的に取り組んでいる。コロナ禍ではあるが体験的な活動を効果的に取り入れ今後とも授業改善を続ける。
②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動）
1学年の⑩に関して、前期と比較するとポイントが少々下がった。後期に入り、住、衣の学習内容に入り、従来のイメージ通りの学習が開始されたと考えた生徒が多いと分析する。高校生になって、一步進んだ文化的な生活、科学を活かした豊かな生活を創造できるよう学習の内容を深めるために、授業研究に努めたい。
③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動
定期テストを年2回実施している。その際、学習範囲が広く生徒にとって学習のポイントとなるところが不明瞭になりがちである。適宜、小テストなどを行い知識・理解の定着を図りたい。

教科（商業・情報科）
①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動）
<ul style="list-style-type: none"> ・全学年とも全体的に評価が高かった。 ・実技科目が多く、自分の進路に直結した授業が多いと考える。
②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動）
<ul style="list-style-type: none"> ・1学年の「わかりやすく発信したりまとめたりできている」の項目が低かった。 <ul style="list-style-type: none"> → 単元ごとに小テストの他に、簡単な資料作成等の作業を取り入れ、情報を整理する能力を育成する。 ・2学年に比べると、3年生の「その教科に対する興味関心が高まった」という項目が低かった。 <ul style="list-style-type: none"> → 進路決定に伴い、選択科目のミスマッチが生じている可能性がある。
③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動